

症例基盤・問題解決型学修(入門)

ナンバリング

M1-S1-E01

責任者・コーディネーター	腫瘍生物学研究部門 前沢 千早 教授		
担当講座・学科（分野）	腫瘍生物学研究部門、地域医療学分野、糖尿病・代謝・内分泌内科分野、脳神経内科・老年科分野、総合診療医学講座、医学教育学分野		
担当教員	前沢 千早 教授、伊藤 智範 教授、前田 哲也 教授、石垣 泰 教授、佐々木 章 教授、下沖 収 教授、高田 亮 教授、安平 進士 講師、相澤 純 特任講師、柴崎 晶彦 助教		
対象学年	1	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 7コマ 14.0時間
期間	通期		演習 0コマ 0.0時間 実習 20コマ 40.0時間

・学習方針（講義概要等）

岩手医科大学公開症例集（Paper Patients）をもとにした問題解決型学習(PBL; Problem based learning)をおこなう。一般的な症候（頭痛、胸痛、腹痛、血痰・喀血、吐血・下血、麻痺、意識障害・失神、運動麻痺・筋力低下、ショック、など）を訴える患者に対して、どのようなアプローチで病気の診断と治療を行えば良いか、またそれを論理的に進める際に必要な基礎的知識と技能が何かを、少人数グループ（履修背景をもとにしたメンバー構成）で調べて、プレゼンテーション資料をつくり、発表と討議を行うコースである。

・教育成果（アウトカム）

症例をベースにした少人数グループ作業によるPBLをおこなうことで、常に病者を念頭において、ヒトの体の正常構造と機能、および病態生理を学ぶことができるようになる。また、チームとして作業をする上で必要な、役割分担とコミュニケーション能力が向上する。自己の学修履歴を記録しておき、常に振り返る習慣を身につけることで、自己学修を自律的にこなうことのできる学生になる。

（ディプロマ・ポリシー： 1,2,4,5,6 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	少人数グループ内で、役割を決めて成果物を作り上げることができる。
2	チームの和を保ち、良好なコミュニケーションをとることができる。
3	疾患の理解には、どのような基礎知識が必要となるか、具体例をあげて説明できる。
4	病歴を読み解き、診療、診察、診断、治療方針の立案プロセスを机上体験することで医師の職務を実感できる。
5	自己学修の記録をつけることができる。
6	プレゼンテーションソフトを使って、個別の疾患を説明できる。
7	医療における倫理的な行動とはどのようなものか、考察し、議論することができる。
8	病者の立場に共感する態度を身につけることの重要性を認識できる。

・講義場所

講義：東1-A講義室・SGL・その他教員の指定する場所

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	4/28(月)	1	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	問題解決型学習（PBL） とグループワークのイン トロダクション【実習 室】	1,2,3,5,6,7,8
実習	4/28(月)	2	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	臨床医学を学ぶ上で、何 が必要で重要かの学修観 点を討議する【実習室】	1,2,3,5,6,7,8
実習	5/2(金)	1	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	グループ成果物の発表 【実習室】	1,2,3,5,6,7,8
講義	5/2(金)	2	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授	疾病論入門【講義室】	4,5
講義	5/14(水)	3	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	模擬患者診察「症例をど う診るか【講義室】	4,5
実習	5/14(水)	4	腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授	PBL【実習室】	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	6/24(火)	3	腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門 腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授 安平 進士 講師 柴崎 晶彦 助教	PBL【実習室】	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	6/24(火)	4	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	PBL【実習室】	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	6/30(月)	3	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	PBL【実習室】	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	6/30(月)	4	地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野	伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	グループ成果物の発表 【実習室】	6
実習	6/30(月)	5	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	グループ成果物の発表 【実習室】	6
実習	7/14(月)	3	腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授	TBLによる確認テスト 【実習室】	2,3
講義	7/14(月)	4	腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授	解説講義【実習室】	2,3
講義	7/14(月)	5	外科学講座 糖尿病・代謝・ 内分泌内科分野 脳神経内科・老年科 分野	佐々木 章 教授 石垣 泰 教授 前田 哲也 教授	臨床講義 【講義室】 ※詳細別紙	3,4,5
講義	9/8(月)	3	腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授	カルテの書き方【講義 室】	4,5
実習	9/8(月)	4	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	PBL【実習室】	1,2,3,4,5,6,7,8

実習	9/8(月)	5	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	PBL【実習室】	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	10/6(月)	3	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	グループ成果物の発表 【実習室】	6
実習	10/6(月)	4	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	グループ成果物の発表 【実習室】	6
実習	10/20(月)	3	腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授	TBLによる確認テスト 【実習室】	2,3
講義	10/20(月)	4	腫瘍生物学研究部門 総合診療医学講座	前沢 千早 教授 下沖 収 教授	模擬患者診察「症例をどう診るか:症例0ーその後」【講義室】	2,3
実習	10/20(月)	5	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	PBL【実習室】	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	10/27(月)	3	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	グループ成果物の発表 【実習室】	6
実習	10/27(月)	4	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	グループ成果物の発表 【実習室】	6
実習	10/27(月)	5	腫瘍生物学研究部門 地域医療学分野 医学教育学分野 医学教育学分野	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	グループ成果物の発表 【実習室】	6
実習	11/10(月)	3	腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授	グループ成果物の共有化と解説講義【実習室】	1,2,3,4,5,6,7,8
実習	11/10(月)	4	腫瘍生物学研究部門	前沢 千早 教授	ポートフォリオ整理【実習室】	1,2,3,4,5,6,7,8

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	岩手医科大学基本症例集（オープン問題）			
教科書	内科診断学 第4版	福井次矢/奈良信雄/松村正巳	医学書院	2024/03/01 電子ジャーナル有り

・成績評価方法

【総括評価】 後期試験（65%）、前期試験（30%）、ポートフォリオ記録（5%）で評価し、100点満点に換算して 60点以上を合格とする。 【形成的評価】 TBL/解説講義ならびにwebclassを使った小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。 実習中（発表会）の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。
--

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前・事後学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebClassで配信する。本科目では、事前事後学修以外に各回30分の自己学修を要す。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書：内科診断学（医学書院）、講義室（おもに東1 A）、実習室（おもに西4 AB）、SGL、PC、webclassによる演習

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン	1	講義
講義	プロジェクター	1	講義

・臨床講義について

○本講義は医学部入学早期に臨床医学に触れることで、近い将来の医学の学修を身近に感じてもらうことが狙いである。今後学習していく教養科目・基礎医学の知識・教養を将来どのような場面で活かすことが出来るのかイメージすることにより、学修意欲を向上させることが目的である。各講義回では、身近な医学的事象・現象を、医学的・科学的に捉える考え方を解説する。

○各講義詳細

講義日時	令和7年7月14日（月）16：20～16：50
講義担当者	外科学講座 教授 佐々木 章
講義テーマ	太るを科学する
講義の狙い	太るには必ず理由があるのでその原因と機序、そして、減量の基本は食事療法であることを解説する。また、医学的に治療が必要な肥満症についての知識を学び、医師のみならず、看護師、薬剤師、管理栄養士などの多職種がチームを組み、治療と管理を行うことが重要であることを理解する。
主題臨床現象	高度肥満症に対するチームアプローチ（岩手医大の取り組みが取り上げられたニュースの動画）、減量・代謝改善手術前後の患者の外観（写真）
解説内容	メタボリックシンドローム、肥満と肥満症、太る食べ物と太りにくい食べ物、肥満関連健康障害、人の摂食調節、腸内細菌と肥満症、減量・代謝改善手術（メタボリックサージェリー）、チーム医療 到達目標：肥満と肥満症について説明できる。肥満に関する病態について説明できる。チーム医療について説明できる。肥満症の治療について説明できる。肥満症に合併する疾患について説明できる。
到達目標	肥満と肥満症について説明できる。肥満症の病態と治療について説明できる。肥満症に合併する疾患について説明できる。減量・代謝改善手術について説明できる。チーム医療について説明できる。
備考	講義前に自分の体格指数（BMI）を計算してくること。＊BMI＝体重(kg)÷身長(m) ² 体重を身長 ² の二乗で除す。

講義日時	令和7年7月14日（月）16：50～17：20
講義担当者	糖尿病・代謝・内分泌内科分野 教授 石垣 泰
講義テーマ	食べ過ぎるとなぜメタボになるの？
講義の狙い	食べ過ぎると内臓脂肪が蓄積し糖尿病や高脂血症が出現するという身近な現象を切り口として、三大栄養素の役割と糖代謝・脂質代謝の生化学的理解の重要性を理解する。
主題臨床現象	メタボリックシンドローム、肥満、異所性脂肪蓄積（脂肪肝、脂肪筋など）
解説内容	栄養素がどういった代謝を受けてATP産生につながるか、また余剰エネルギーが脂肪として蓄えられる仕組みを理解する。内臓脂肪蓄積が生活習慣病発症につながる機序を理解する。
到達目標	食事から供給された栄養素が体内に取り込まれる経路を説明できる。余剰なエネルギーが内臓脂肪蓄積につながり、生活習慣病を引き起こす理由を説明できる。肝臓や筋肉に脂肪が蓄積することの病的意義を説明できる。

講義日時	令和7年7月14日（月）17：20～17：50
講義担当者	脳神経内科・老年科分野 教授 前田 哲也
講義テーマ	ふるえる神経学
講義の狙い	最も日常的な臨床症状の一つであるふるえ。ふるえを主訴として受診する患者、疾患は多様性に富み、様々な病態生理を背景として生じる。その向こうに広がる無限の神経学の入り口に立ち、興味と感心を持って貰いたい。
主題臨床現象	ふるえを主症状とする様々な神経疾患（動画供覧）
解説内容	ふるえを主徴とする神経疾患の動画を供覧し、その疾患の概念、臨床症状、神経所見、画像所見、臨床診断、治療などを解説する。
到達目標	ふるえという神経徴候を理解する。ふるえの多様性を学ぶ。ふるえを呈する疾患の概略を身につける。